

会議議事録(要旨)

会議名	令和7年度第2回 宝塚市自立支援協議会 障害(がい)福祉基金活用検 討会	場所	宝塚市役所第二庁舎 会議室AB
		開催日時	令和7年8月14日(木) 14:00 ~ 16:00
出欠者	出席者:委員17名(委員総数20名) 事務局3名 見学10名		
議題		内容	
【事務局説明】 今後のスケジュー ルについて	意思決定マトリッ クの説明について	【今後のスケジュールについて】 今後のスケジュールとして、9月末までのタイトな時間で課題の整理、施策案の検討までを行うことと、市長への報告書の作成をるところまでを今年度の障害(がい)福祉基金活用検討会で行う。第2回検討会では課題整理を意思決定マトリックスで集約し、並び替え、課題整理の意見交換し、課題整理についてまとめていくこと、施策案についての意見交換ができればと考えている。第3回の会議にて施策案の意思決定マトリックスを使い、意見交換を行いまとめていきたい。第4回の会議では市長報告案として、課題整理、施策案を整理したい。	
		【意思決定マトリックスの説明について】 意思決定マトリックスツールを利用し、各項目の評価、説明を図った。将来に渡って有用な施策となりうるのかなど、課題解決することで障害のある方の暮らしの安定に継続的につながるのかを評価をしてもらう事前説明のもと各委員に回答してもらい、意見交換の活性を図りたい。 【意思決定マトリックス回答について】 意思決定マトリックスシート回答の見方と協議の進め方について説明。 点数の見方についての説明したうえ、並び替えをおこなったものは参考指標として見ていただきたいこと、優先順位を示すものではないことを説明。	
【協議事項】 ・課題に対する質疑 応答、意見交換	・施策案について	【課題に対する質疑応答、意見交換】 多岐にわたる課題と要望が提示された。まず、障害者スポーツできるなどの「施設の未整備が大きな問題として指摘され、近隣市と比較しても遅れている現状が報告された。施設は健康増進や交流促進、共生社会実現の拠点として重要であり、早期整備を求める声が上がった。次に、医療的ケアを要する障害児者のショートステイについて、市立病院での受け入れが機能していない実態が示され、緊急的な事業化と体制構築が必要とされた。さらに、災害時の避難所についてはバリアフリー化や医療的ケア対応が不十分であり、迅速な改善を図るべきとの意見があった。交通費助成では、精神障害者へのバス半額助成が他障害(がい)種別に比べて不十分であり、不公平の是正が求められた。加えて、長期入院者の地域移行を支える中間施設の整備、相談支援専門員の人員不足やケース会議未実施といった相談支援体制の改善、事業所開設支援なども重要な課題として取り上げられた。議論の中では、「緊急性・必要性・実現可能性・将来性」を基準とした評価が必要であること、また基金に頼るだけでなく施策全体を見直す視点が不可欠であることが共有された。最終的に、今後の優先度付けと方向性を整理し、市長への報告につなげていくことが確認された。	
		【施策案について】 (事務局説明) 施策案として課題の中でも上がってきていますが、市として以前より進めていました施策案について例示させていただきます。 (例示) 障害福祉分野でも人材不足が課題であることから、昨年度から障害(がい)福祉人材確保協議会を立ち上げ、意見を伺い協議を行った。協議内容から見えてきた課題のうち、人材確保・人材定着の施策案として、福祉職同士の交流や、若い世代への福祉現場の周知を広めていくこと、福祉現場をいろんな方に知ってもらうためのSNS活用による動画作成費用助成や、また、障害(がい)福祉分野で必要な資格費助成についても考えられる。 (協議内容) 多方面から課題と施策案が議論された。近隣自治体の施設活用方法を反映した要望について、市側の現状の意見交換や、相談支援専門員の質の向上やケース会議未開催の問題については、既存の自立支援協議会や事業所連絡会で解決を図りつつ、市独自研修や補助金、ICT導入などコストを抑えた施策が提案された。また、障害者の就労創出として図書館蔵書のデジタル化業務を担わせる案や、既存施設の改修・人材確保によるサービス向上が議論された。新規施設建設は巨額で基金だけでは賄えないため、調査費としての活用案や、既存施設・人件費補助を組み合わせる具体策が必要とされた。精神障害者へのバス半額助成の実現に向け、行政・基金・バス会社の協働案も検討された。基金活用に関しては、緊急性・必要性・実現可能性・将来性に加え、新規事業・既存施設の活用・人件費補助といった分類を加えた意思決定マトリックスを作成する方針が示された。人材確保策では、若年層向けのヘルパー講座やSNS活用による啓発なども議論された。	